

研究課題：家庭・地域社会等との連携・協働と学校間連携の推進

～小中連携型コミュニティ・スクールとしての取組～

提案者 尾道市立向東小学校長 丸山 裕子

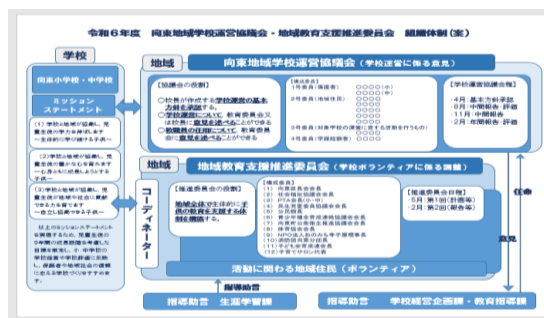
平成 29 年に「地方教育行政法」で学校運営協議会の設置が「努力義務」と改正されたことから、尾道市でも、尾道教育総合推進計画において、令和 8 年度までに全ての小中学校に中学校区を単位として設置するとしている。

本校の特色は、小中連携型としては尾道市初のコミュニティ・スクールということである。平成 25 年に単独で指定を受けた後、平成 30 年から小中連携型になり、隣接する向東中学校とともに学校と地域が協働して児童・生徒の学力、豊かな心、地域や社会に貢献できる力の育成を目指して取組を進めている。

グランドデザインでは、めざす学校像を達成するために、ミッションステートメントを策定し、9年間の発達段階における目指す姿や実現のための教職員の行動目標を示した。また、グランドビジョンでは、9年間の学びを充実させ、進路実現のための資質・能力を育成するために、

児童・生徒の発達段階に応じた目標を示した。

組織は、学校運営協議会と地域教育支援推進委員会があり、学校の運営に資する学校運営協議会は、年間4回の協議を行う。また、実際に学校を支援するボランティア組織として地域教育支援推進委員会があり、地域の各種団体の長がメンバーとなっている。実際に学校と地域を結ぶコーディネーターを公民館長が担い、学校ボランティアに係る調整を行ったり、地域行事へ子供達の参加を促したりして、地域と学校・家庭・子供をつなぐ架け橋となっている。



【图1 向東地域学校運営協議会・地域教育支援推進委員会 組織体制】

児童の既習事項における未定着状況を克服するため、担任が指導をしやすい体制を構築することを目的として取り組む。

ア めんめんタイム (低学年補充学習)

月曜日の5校時、地域ボランティアと担任とで指導にあたる。スピード感のある効率的な指

導と肯定的な評価で、習熟を図っている。

イ 個別指導

金曜日の放課後、各学年の学力に課題のある児童を対象として行う。個に応じた指導を行い、学力の底上げにつなげている。

② 豊かな心を育む取組

地域ボランティアの専門性を活かし、魅力ある活動を行い、肯定的な評価をもらうことで豊かな心を育む。

ア クラブ活動

全13クラブのうち、外部講師の指導によるクラブは9クラブ。卓球、囲碁将棋、ダンス、絵画、琴など専門的な指導を行う。児童は技術や知識を習得することができる。

イ ボランティアによる本の読み聞かせ

あひる文庫は、全学年に絵本の読み聞かせを行う。中でも地域に伝わる民話を手作りで作成した大型紙芝居は、臨場感あふれる大迫力の絵と感情のこもった語りから、お話の中へ引き込まれる。故郷について知り、故郷を愛する子供たちが育っている。なお、あひる文庫は就学前から中学卒業まで関わっている。

(4) 小中連携の取組

ミッションステートメントを達成するために、小中の教職員が、小中合同作業部会として、「学力向上部会」「豊かな心と体育成部会」「地域社会貢献部会」の3部会に分かれて活動を進める。

「学力向上部会」では、学力調査の分析、総合的な学習の時間の見直しを行い、「豊かな心と体育成部会」では、中学校オープンスクール、中学校教員による小学校での出前授業、スポーツの交流、食育推進を行う。また、「地域社会貢献部会」では、児童会・生徒会を中心とした小中合同挨拶運動や地域ボランティア活動への積極的な参加、小中合同地域貢献活動を行う。

また、夏季休業中には合同研修を開催し、小中の教職員が連携を深め、ミッションステートメントの実現を図っている。

(5) 地域との連携

① 地域行事への参加

故郷を愛する子供を育てるために、地域の各諸団体と連携し、地域行事への参加を積極的に進める。

向東まるごとフェスタは、幼児から高齢者までが一日楽しめる向東町民のお祭である。オープニングでは小学生有志による「ええじゃん・SANSA がり踊り」や中学校ブラスバンド部の演奏を披露し、町の人に元気と笑顔を届けている。

また、地域のためにボランティアをしたいという小中学生が「コネクトチルドレン」というボランティア組織を作り、文具や玩具、制服の有効活用のためにフリーマーケットを行った。

② ありがとうの会

毎年2月に、お世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えるありがとうの会を実施する。学年ごとに、子供達の歌や踊り、メッセージを披露する。地域の方は子供達に元気をもらったと喜んでくださる。

3 校長の役割

○ビジョンの明確化

- ・教職員・保護者・地域住民と共有化

○組織作り

- ・教職員間、学校間の組織作り
- ・地域と学校間の円滑な体制作り

○組織の機能化

- ・P・D・C・Aサイクルによる振り返り

4 おわりに

本校の児童は、幼少期からの地域の方との関わりを通して、素直で優しい子供達に育っている。保護者は地域に感謝し、地域は学校に協力したいという思いが強い。少子高齢化の中で、学校・保護者・子供・地域がコミュニティ・スクールの良さを実感し、無理なく持続可能な協働の仕組みを今後も追究していきたい。